

神樂を活かしたJR三江線の活性化について

三江線活性化協議会
島根県地域振興部交通対策課

JR三江（さんこう）線の沿線地域には、悠々と流れる江の川の景観や自然の恵みを受けた豊富な食材があるほか、神樂などの伝統芸能が盛んで、100近い神楽団が活動しているといわれています。一方で、鉄道利用者の減少傾向が止まることなく厳しい状況が続いています。

本稿では、当協議会が設立された背景や神樂を活用した活性化の取組などを紹介します。



神楽演目の一つ『大蛇』

○三江線活性化協議会とは

JR三江線の活性化に向けて、沿線6市町・島根県・住民代表・観光関係者・島根県立大学・JR西日本米子支社など沿線地域及び関係機関が連携して取り組むことを目的に、平成22年に設立された協議会です。

○三江線とは

島根県江津市と広島県三次市を結ぶ全長108.1kmの路線です。列車は、江の川に沿って運行しており、車内から眺める雄大な景色は見るものを飽きさせない自然美を誇っています。

春は沿線の駅周辺に多くの桜が咲き誇り、車窓から眺める景色は素晴らしいものがあります。また、沿線の山々には「こぶし」や「山桜」が多くあり、美しい春の風景を醸し出しています。

また、新緑の山々、青々とした初夏の水田や黄金色に染まった9月の水田などは懐かしい田舎の風景を見せてくれます。

11月になると沿線の山々は美しく紅葉し、錦をまとった山々と江の川が醸し出す風景は素晴らしいものがあります。



三江線 路線図



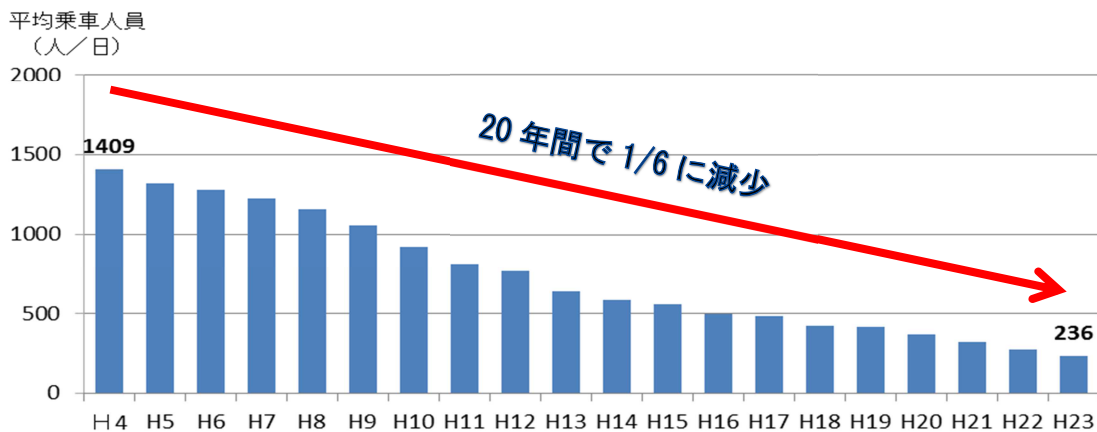
沿線では、四季折々の風景を楽しむことができます

○三江線の現状

昭和50年に全線開通した三江線ですが、利用状況は開通当時から芳しくありませんでした。昭和62年の国鉄民営化の際には、三江線も廃止対象路線にあげられましたが、代替道路が未整備であることを理由に廃止対象路線から外された経緯がありました。

1日の平均乗車人数は平成4年に1,409人に対し、平成23年には236人と、この20年間で約1/6に減少しています。

利用客減少の理由としては、沿線の人口減少・少子高齢化の進展、マイカー利用の増加、沿線高校によるスクールバス運行の拡大等があり、特にスクールバス運行は中山間地域から通学する子供を持つ保護者から支持され、運行本数・区間が年々拡大されており、利用者減少の大きな要因になっています。



三江線 平均乗車人員の推移

このような状況を受け、当協議会では平成23年3月に『三江線沿線地域公共交通総合連携計画』を策定し、『「生活鉄道」としての活性化』、『「ふるさと鉄道」としての掘り起こし』など活性化に向け五つの目標を掲げ、目標を達成するための75の具体的取組を設定しました。

具体的取組では通勤・通学・通院など日常利用の確保・拡大を目的に三江線回数券購入補助事業や、沿線住民の利用促進を促すため三江線を利用したイベントに対する補助事業などを実施しており、両事業とも前年度を上回るご利用を頂いています。

補助事業実績比較

	平成23年度	平成24年度	増減
回数券補助（販売数）	230綴り	330綴り	+100
イベント補助（件数）	24件	54件	+30

※10月末時点での比較

○三江線増便社会実験（バス）の実施

連携計画を策定する際に、地域住民・利用者などに三江線に関するアンケートを実施しました。その回答の中で、「本数が少ない」「通学時間帯に列車が無い」「最終列車が早い」など列車ダイヤに関する要望が多く寄せられました。

現在の三江線ダイヤは、江津～浜原駅間・口羽～三次駅間が1日5往復、浜原～口羽駅間が1日4往復しかありません。また、列車本数の減少により、列車の運行間隔が5時間以上開いている駅もあります。さらに、最終列車の時刻は、江津駅発18時56分、三次駅発19時15分と早いなど、利用者にとって利用しにくい設定となっています。

そこで、本協議会とJR西日本米子支社が共同で三江線の利用促進と沿線住民からの要望に対する需要調査を目的に、平成24年10月1日から12月31日まで増便実験を行っています。これにより三江線内の運行本数は約2倍になり、利便性が格段に向上しています。

なお、本来なら列車での増便を行うところですが、行き違い設備や車両数の制限があることからバスによる増便が決定されました。



増便社会実験チラシ

(下り)江津方面⇒三次方面

	増便バス	列車	増便バス	列車	増便バス	増便バス	増便バス	増便バス	列車	増便バス	列車	列車	列車	列車	増便バス	列車	増便バス
江津				6:00	7:19		11:06		12:44	13:30		15:08	16:34		17:40	18:56	19:58
石見川本				7:08	8:24		12:03		14:00	14:27		16:16	17:42		18:37	20:05	20:55
浜原		6:01		7:47	9:00	9:49	12:39		14:38	15:03		17:01	18:20	18:41	19:13	20:42	21:31
口羽	6:01	6:40	7:47	8:26		10:47		12:53			15:18	17:52		19:21			
三次	7:02	7:35	8:48	9:20		11:48		13:54			16:13	18:47		20:17			

(上り)三次方面⇒江津方面

	増便バス	列車	増便バス	列車	増便バス	列車	増便バス	列車	列車	増便バス	列車	列車	増便バス	増便バス	列車	列車	増便バス
三次				5:46	7:12	9:57	11:37		14:15			16:56	18:24			19:15	20:19
口羽				6:07	7:08	8:15	10:53	12:38	15:10			17:51	19:25			20:11	21:22
浜原		6:28	7:05	7:47	9:11	11:31			15:38	16:57	18:30				19:00	20:49	22:18
石見川本	6:01	7:09	7:43	8:26		12:08		13:53		16:16	17:42		18:34	20:04			
江津	6:56	8:15	8:38	9:32				14:59		17:11	18:49		19:29	21:11			

三江線時刻表（主要駅のみ）

○三江線神楽キャンペーンの実施

この秋、島根県では日本最古の歴史書・古事記編纂1300年を記念し、神話・古代の世界が満喫できる『神話博しまね』の開催、隣の鳥取県でも『国際まんが博』が開催されました。さらに島根県・鳥取県・JRグループが連携して『山陰デスティネーションキャンペーン』を12月31日まで開催しており、非常に多くの観光客で山陰両県は賑わっています。

そこで、この機会に増便社会実験と合わせて、三江線の魅力をアピールするため『三江線神楽キャンペーン』を実施しています。

三江線沿線には、大元神楽、阿須那系神楽、高宮系神楽など多様な神楽が存在しています。神楽はその昔、江の川に沿って島根から広島に伝播した歴史があり、三江線は神楽の歴史を辿るルートでもあります。そこで、『神楽』を核とした観光誘客に取り組み、三江線の需要喚起を図るため、『三江線神楽キャンペーン』を実施し、誘客促進と神楽観光ルートとしての定着を図ることとしました。

キャンペーン企画として、『神楽駅名板の設置』、『神楽ビンゴ』、『神楽列車の運行』などを実施しています。



神楽CP パンフレット

☆神楽駅名板の設置

三江線全35駅に神楽にちなんだ愛称を付け、駅のホーム・待合室などに神楽駅名板を設置しました。神楽駅名を設定する際には、地元の方々や沿線の神楽団と協議を重ね、神楽駅名に愛着を持ってもらえるように配慮しました。



石見川本駅に設置された神楽駅名板



☆神楽列車の運行

神楽キャンペーン期間中に6本の特別列車を運行します。この特別列車の車内では神楽の上演や、沿線6市町が担当しコンサート、地酒・ワイン・特産物等のふるまい、観光P

Rなど特色ある演出を行っています。



列車内で舞われる神楽にお客様も大興奮！！



なんと、列車内にピアノやマリンバを積み込んでコンサートを実施しました

○最後に

三江線には、秘境駅で有名な長谷駅、駅舎が地上20mにありホームまで116段の階段を上る宇都井駅など特色がある駅が多くあります。

三江線の魅力をぜひ体験してみてください。

三江線活性化協議会HP：<http://sankousen.com/>